# 成瀬地域における住民の主体的活動のネットワークの拡がり

## The expansion of local community networks in citizen-based activities in the Naruse area

住居学科　　矢島　浩子　　薬袋　奈美子
Dept of Housing and Architecture　　Hiroko yajima　　Namiko Minai

**抄　　録**　街づくりの手法は，行政が企画計画施工の全てを主導で行うトップダウン方式から，住民と行政とが協働し街づくりを行うボトムアップ方式へと移行してきている。しかし，本質的に「住民が主体」で街づくりに関わることができている事例はまだ少ない。[1] 現在，町田市内では，社会貢献活動，地域のための活動を行う団体が NPO 法人として登録されているだけでも 188 団体ある。その中で調査対象地域の成瀬は 19 団体が地域課題に取組んでいる。[2]

本稿では，成瀬地区で地域のために活動をしている団体に着目し，住民の主体的活動のネットワークの拡がりを明らかにする。

その結果，成瀬地域では，会報の発行やイベント等を通じて，地域住民を積極的に取り込み，組織を支えるネットワークを拡げていることがわかった。これらの活動が組織と地域をつなげ「住民主体」の街づくりの基盤になっている。

**キーワード**：住民主体，街づくり，地域住民，つながり，ネットワーク

**Abstract**　Methods of community development are shifting from the top-down basis in which administration takes the initiative in all of planning and enforcement, to the bottom-up basis in which citizens also participate in it.　However, there are still a few examples we can see of essentially "citizen-based" community development. In Machida-city, there are 188 groups registered as "NPO", acting as local community services. In Naruse out of the survey area, 19 groups are working on local community issues.

In this report, we focus on their activities for the local community in the Naruse area we describes the expansion of community networks through citizens playing major roles.

As a result, they have energetically allomen local residents to become actively involved as "a central role in community activities", such as publishing local magazines and holding events in order to expand the local community network. Furthermore, the tin method of approach has united the organization and the local community, and established a base for citizen-centered community development.

**Keywords**: residents, urban development, local residents, connection, network

## 1. はじめに

### 1-1　背景・目的

地域の住環境は，住民の自発的な活動によって支えられていることが多い。いかに住民が主体的に近隣住民に声をかけて住環境を整えるかが重要である。しかし主体性については，数値的に計測することは難しい。

街づくりにおける行政との関わりには「住民参加」「住民参画」「住民主導」「住民主体」の４つの方式があると麻生憲一は指摘する。「住民参加」とは行政が企画発案したものを住民と一緒になって進めること，「住民参画」とは市民と行政が企画計画段階から一緒になって発案し，討議しながら押し進めていくこと，「住民主導」とは，市民が主体となって企画したものを行政が支援しながら押し進めていく

こと「住民主体」とは，住民が責任と主体性に基づき独自に街づくりを行うこと，と定義している。[3]
また「住民主体」の街づくりについて篠原祥は，（1）スタートの切り方として何らかの必要性や意義を感じた「誰か」が，できることから実行すること，（2）多様な担い手の参画と知恵の結集としてボトムアップで人々の参画，連携を実現すること，（3）地区のアイデンティティの醸成方針として人々の共感，共有を生み出すこと，（4）継続性の確保として街を「育てる」という視点を持つこと，としている。[4]

このような住民参加の考え方がある一方で，実際に住民参加で街づくりを行う際には，その担い手や活動を理解し参加してくれる人の確保に苦慮することが多い。活動の立ち上げ当初には積極的であった担い手や参加者も時が経つにつれ，生活の状況が変わり参加できなくなる。それでも組織を維持する為には，立ち上げ当初のメンバーから新たな担い手にどのように引き継いでいくのかを考えることが重要である。

本稿では，住民が主体的に町を育てるような取り組みの事例を町田市の成瀬地域に見出し，それを実現させた背景にある担い手の拡がりについて確かめることとする。

### 1-2　研究の方法

研究方法として，「成瀬」[7] 著者でもある昔から住む住民へのヒヤリング*1及び，土地区画整理事業に関わった元 JA 職員のへのヒヤリング*2をもとに，成瀬地域の中の 8 つの団体組織による「住民主体」の事例に着目し，それぞれの団体が，どのように課題を設定し，組織を立ち上げ，地域の中で成熟していったのかを地域のネットワーク，組織運営，組織の質を高めるための活動分析をする。また，地域の空間の質に注目し，その組織が地域の中でどのような役割を果たしているのかを住空間の視点から考察する。

先行研究では，行政との協働の街づくりの事例やプロセスについては数多くの研究があるが「住民主体」の街つくりの組織活動を住空間の視点から比較分析したものは少ないと考える。

## 2　成瀬地域の概要

町田市は，1958 年に鶴川村・町田町・忠生村・堺村を合わせて東京都で 9 番目の「市」として誕生した。同年の首都圏整備法により市街化開発区域（衛生都市）に位置づけられ急速に宅地開発された。

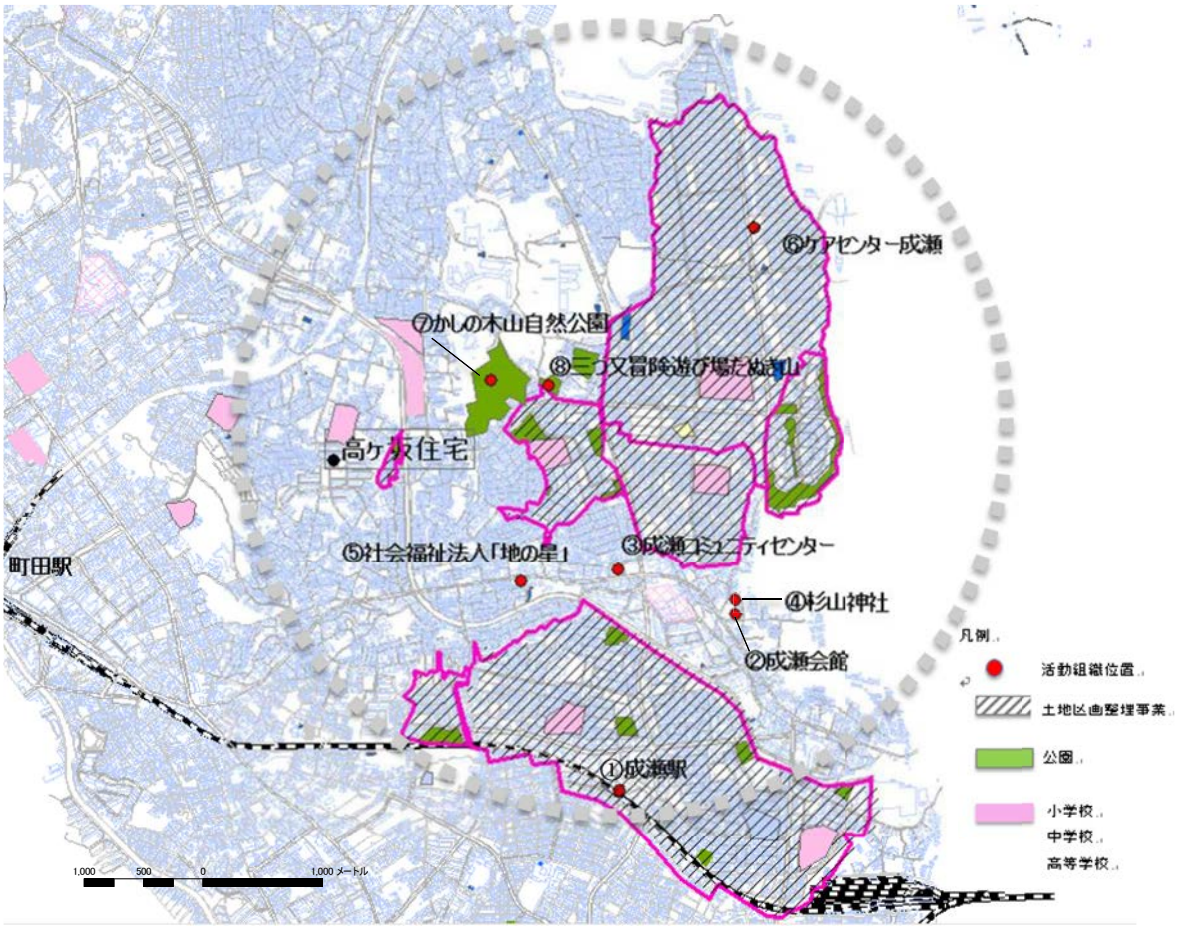
1959 年に町田市は市全域を都市計画区域としたが，用途地域制は「市街化すべき区域内」のみに指定され，丘陵部は無指定のまま残された。その為，農地転用の手続きのいらない山林などはスプロール化が進んでいった。[5] [6] *3

こういった開発の中，町田市の中心部である原町田地域と，東急田園都市線の長津田・つくし野地域に挟まれた成瀬地域も，例外ではなかった。

もともと成瀬地域は，千石村と言われるほど石高が高く豊かな村であった。田畑山林が程よくあり，雑木林は，薪・建築材料に利用され，田では米，畑では麦やサツマイモ，野菜が収穫され穏やかな山里であった。しかし 1960 年代に入ると高ヶ坂住宅（東京都住宅供給公社）などの大規模団地建設が始まった。市内にはまだ下水処理施設が整っていなかった為に，水が汚染され耕作が十分にできなくなった。その当時の様子を農家は，川の水を利用して野菜を洗ったり田に引いたりしていた。「高ヶ坂団地の排水が川に流れ込み，次第に川が洗剤で汚染されてしまい風が吹くと，泡がふわふわと堰のある所にたまって川に浮かんでいた。水が臭くて臭くて田植えができない状態であった。」と井上恭一氏は言う。そのような中，成瀬地域においては民間開発による住宅団地開発の兆しが見えはじめた。市の指導により広い地域を総合的開発することが将来を見通した場合その地域だけでなくもっと必要である。という意見がでてきたのである。

このような状況を踏まえて，1970 年以降成瀬地域一体として大規模な土地区画整理事業が行われることになった。[7] 対象地区は，地図 1）に示す通りである。今では良好な郊外住宅地となっている。

成瀬地域の土地区画整理事業 1970 年頃から 7 カ所施行されている。個人施行が 1 カ所，組合施工が 6 カ所である。組合施工によるこの区画整理事業は JA が，汚染された農地に困っていた農家の意見をまとめながら，住宅地としての基盤整備を進めた。JA 職員であった小宮氏によると，「JA を中心とした良好な住宅地形成に繋がる高い減歩率にも納得をしながらの整備であった。」とのことである。




**地図 1）** 成瀬地域「住民主体」の街づくり位置　（国土交通省基盤地図一部加工）

## 3　市民活動の概要

ここでは「成瀬」[7] 著者であり昔から住む住民へのヒヤリング及び，町田市が作成する「まちだのNPO」[2] より，成瀬地域における市民活動を拾いだし 8 事例を挙げ検証する。①成瀬駅　②成瀬会館（NPO 法人）③成瀬コミュニティセンター　④杉山神社　⑤社会福祉法人「地の星」⑥社会福祉法人創和会　ケアセンター成瀬　⑦かしの木山自然公園　⑧三つ又冒険遊び場たぬき山（NPO 法人）である。地図 1）は，成瀬地域における 8 事例の活動拠点の位置を示す。土地区画整理事業内には，成瀬駅とケアセンター成瀬があり，その他の団体，成瀬会館・成瀬コミュニティセンター・杉山神社・社会福祉法人「地の星」は土地区画整理事業外の幹線道路沿いにある。また，かしの木山自然公園・三つ又冒険遊び場たぬき山は成瀬地域中心部にある。

表 1）表 2）に各組織の概要を示す。

成瀬駅の設置は，住民の強い意志により実現したものである。横浜線は 1908 年に横浜の東神奈川と八王子との間に生糸を横浜に運ぶ輸送路として開通した。しかし，成瀬には駅がなく住民は長い間，目の前に電車を通るのを見ながら，町田駅や長津田駅を利用していた。その為，成瀬駅設置は，成瀬地域の人の悲願であった。成瀬南土地区画整理事業組合が中心となり新駅設置・建設・開業に向け活動をした。設置が決定されるまでには，署名・請願など「住民主体」での活動を経て成瀬駅が開業した。駅舎・駅前広場の整備費用は，成瀬南土地区画整理組合が負担した。*4

**表 1）** 土地区画整理事業と各団体の活動期間

| 西暦 | 1970 | 1975 | 1980 | 1985 | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 | 2015 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土地区画整理事業 | 1970 ⟷ 1975 成瀬（組合施行） | | | | | | | | | |
| | | 1973 ⟷ 1979 成瀬中央（組合施行） | | | | | | | | |
| | | 1972 ⟷ 1979 成瀬南（組合施行） | | | | | | | | |
| | | | 1979 ⟷ 1984 成瀬西（組合施行） | | | | | | | |
| | | | | 1983 ⟷ 1989 高ヶ坂（組合施行） | | | | | | |
| | | | | | 1991 ⟷ 1996 成瀬東（組合施行） | | | | | |
| | | | | | | | 2000 ⟷ 2002 三蔵寺端（個人施行） | | | |
| ①成瀬駅設置 | 1933---1966 ⟷ 1979①成瀬駅開業 | | | | | | | | | |
| ②成瀬会館建設 | 1968---1970②成瀬会館建設 | | | | | | | | | |
| ③成瀬コミュニティセンター運営の検討 | | 1978 ⟷ 1979③成瀬コミュニティセンター ⇨ | | | | | | | | |
| ④杉山神社の遷都 | 1965----------1977 ⟷ 1982④杉山神社 | | | | | | | | | |
| ⑤社会福祉法人「地の星」建設 | | | | 1986----------1997 ⟷ 2002⑤社会福祉法人「地の星」 ➡ | | | | | | |
| ⑥ケアセンター成瀬建設 | | | | | 1989------1993 ⟷ 1996⑥ケアセンター成瀬 ➡ | | | | | |
| ⑦くすの木山自然公園開園 | | | | 1985---1986 ⟷ 1988⑦かしの木山自然公園 ➡ | | | | | | |
| ⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 | | | | | | | 1997---1999 ⟷ 2014 ➡<br>⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 | | | |
| 凡例 | -------- 事前段階・準備期間 ⟷ 活動期間 ⇨ 活動継続中（単発的） ➡ 活動継続中（継続的） | | | | | | | | | |

**表 2）各組織の概要**

| 活動の主旨 | | | 1）空間的設置型 | | | | 2）ミッション型 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 活動の完結性（一定期間で区切ることができる） | | | | 活動の継続性（一定期間で区切りことができるができない） | | | |
| | | | ネットワークの拡がりが伴わないもの | | | | ネットワークの拡がりを伴うもの | | | |
| 事例 | | | ①成瀬駅設置 | ②成瀬会館建設 | ③成瀬コミュニィセンター運営の検討 | ④杉山神社の遷都 | ⑤社会福祉法人「地の星」建設 | ⑥ケアセンター成瀬建設 | ⑦くすの木山自然公園開園 | ⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 |
| 課題の分類 | | | 地域交通 | 地域施設 | 地域施設 | 地域文化 | 地域福祉 | 地域福祉 | 環境 | 子ども |
| ネットワークの拡がり・地域との関わり | 課題設定 | 初期組織名称 | 「成瀬駅設置期成同盟」 | 「建設準備会」 | 「成瀬センター運営委員会」 | 「対策委委員会」 | 「ベロニカ」 | 「暖家の会」 | 「緑を守る市民の会」 | 「子ども広場を考える会あそべこどもたち」 |
| | | 課題発起 | 成瀬南土地区画事業組合員 | 成瀬土地区画整理事業組合員と町内会 | 町内会 | 氏子 | 個人<br>安達ご夫妻 | 有志<br>西嶋医院の患者と家族 | 住民有志 | 個人 |
| | | 活動の担い手のエリア | 成瀬地域 | 成瀬地域<br>町内会 | 成瀬地域<br>町内会 | 氏子 | | 成瀬地域 | 成瀬地域 | |
| | 組織結成 | 課題設定 | 成瀬駅開業 | 成瀬会館建設 | 成瀬コミュニティセンター利用・運用 | 杉山神社の遷都 | 社会福祉法人「地の星」建設 | ケアセンター成瀬建設 | くすの木山自然公園の開園 | 三つ又冒険遊び場たぬき山の |
| | | 立ち上げ組織名称 | 「新駅建設準備会」 | 「建設準備会」 | 「成瀬センター運営委員会」 | 「建設委員会」 | 「準備会」 | 「センター建設促進住民の会」 | 「くすの木山自然公園愛護会」 | 「三つ又冒険遊び場たぬき山」 |
| | | 活動の担い手のエリア | 成瀬地域 | 成瀬地域<br>町内会 | 成瀬地域<br>町内会 | 氏子 | 施設利用者の家族など | 成瀬地域 | 町田市市域有志 | 利用者の家族など |
| 地域とのつながり | 成果 | | ・現在では一日乗客数19366人／日もの人が利用している駅である。 | 住民が仏事、サークル活動等地域コミュニティの拠点として利用している。 | 住民が様々な地域の活動やサークル活動に利用されている。 | 成瀬地域の祭りとして、毎年7月に例大祭祭りが盛大に行われている。 | 就労施設パンの店「風」や風-タピオラのお店を作って地域とつながり活動している。 | 介護保険事業者として、通所介護・訪問介護・在宅介護支援を行い、ＮＰＯアップルサービスが食事サービス・ホームヘルプサービス・住まいのサービスを行なっている。 | 「身近な自然と親しみ、自然の営みや緑の大切さを楽しみながら理解できる場所」である。 | あかちゃんからおじいちゃんまで様々な世代の人が集まる憩の場所である。 |

成瀬会館は，住民が成瀬土地区画整理組合内の共有地の取り合いから，町内会集会所建設に向けて活動をした。費用は成瀬土地区画整理事業内の共有地の売り払い金と住民からの寄付により建設された。*5 今では NPO 法人を立ち上げ，地域の文化講座の開催，諸々の集会の場とし住民に利用されている。

成瀬コミュニティセンターは，南第 2 小学校が新校舎に移転に伴い旧校舎の跡地利用として設置された。運営は，成瀬町内会中心となり，地域住民により運営されている。*6

杉山神社は「田中の明神」として長い間村人に親しまれている神社であった。しかし，1965 年都市計画路線の公共工事決定に伴い，2・2・13 号線が神域の一部を通過するに伴い東京都より移転の申し入れがあった。その為，氏子は，杉山神社をふさわしい場所に遷都しようと活動した。毎年 7 月には地域の祭りとして成瀬町内会が中心となり例大祭が盛大に行われている。*7

社会福祉法人「地の星」は，安達和郎さん・利恵子さんご夫婦が成瀬地域内の自宅にて障害者の為に活動を始めた。その後，家族の会が安全で安心して活動できる施設をつくろうと，社会福祉施設「地の星」建設へ向けて活動を開始した。就労施設パンの店「風」や風-タピオラのお店を通じ地域とのつながりを大切にしながら活動をしている。*8

ケアセンター成瀬は，西嶋公子医院の患者・家族間からなる「暖家の会」という住民同士が支え合うボランティアの会をつくり，その後成瀬台に高齢化社会を共に生きるためのコミュニティセンターの建設を求める署名運動を行い，ケアセンター成瀬建設に至った。現在では地域福祉の中核的存在となっている。*9

かしの木山自然公園は，住民有志が地域の緑を守ることを目的として署名運動開始し約 1 ヶ月で，10,146 人の署名を集め開園に向け活動をしたことにより，「かしの木山自然公園愛護会」が設置された。愛護会の理念では，「自然の営みや緑の大切さを楽しみながら理解できる「自然教育園」を目指している。愛護会は，かしの木山自然公園の管理・保全・活用・育成の事業を市より受託し，運営を行い行政と協働事業を行なっている。そして次世代に引き継ぐ緑豊かな街づくりの為に活動をしている。*10

三つ又冒険遊び場たぬき山は，子供遊び場の一つである。発端は一人のお母さんが，世田谷の冒険遊び場の記録誌「遊べ子どもたち」との出会いから，子どもの「やってみたい」という思いを大切にした自由な遊び場をつくろうとの思いから活動を開始した。1999 年から地主さんからの土地無料提供等の支援もあり成瀬三つ又で活動を始めた。2014 年まで 15 年間で三つ又での活動は終了したが，場所を移動しながら現在も活動を続けている。乳幼児を持つ親の支援，子どもの体験を広げるイベントの開催等，子どもの遊び場と子育ての環境をより良くする啓発活動を行ない，子どもたちが地域で健やかに育つことを目標としている。*11　*12

## 4　各活動の分析

次に 8 つの団体の組織がどのように課題設定し，組織を立ち上げて地域の中で成熟していったのかを，その地域のネットワークを整理する。その組織が地域の中で，どのような役割を果たしているのかを検証する。

### 4-1　活動の背景

活動の背景として a）基盤整備と実施による，b）公共工事決定による，c）地域からの要望による（障害・福祉施設），d）失われつつあるものを保存と継続，に分類できる。その要因には，地域ニーズに基づく“内的要因”，都市化に伴い必要となった“外的要因”，地域ニーズと都市化によるものを併せ持つ“内的要因＋外的要因”の 3 つに分類した。外的要因として分類されたものは，建物の建設を主としたものが多い。基盤整備事業を実施することに伴い求められる空間，或は必要となる空間の整備を住民が主導して行わざるを得なかったという捉え方ができよう。一方内的要因として分類されたものは，福祉的要素を持つものとなり，子供の遊びに関るようなものも含めると，人々の豊かな生活を支えるものと言えよう。特に箱としての建物の建設ばかりでなく，その後の運営により，出来上がったものの質，或は地域での生活の質に大きな影響を与えるものといる。

成瀬地域で確かめられた住民活動は，必要に迫られてつくられたハード（箱物）整備から，生活の質を向上させるための持続的な運営体制を求められるソフト（仕組み）面を伴う整備に移っていったと言えよう。

### 4-2　課題の分野

成瀬地域では，様々な分野の課題に取り組んでいる。課題の分野は 6 タイプに分類できる。地域交通・地域施設・地域文化・地域福祉・環境・子供である。表 4）は 8 事例を分類したものである。他の地域での活動と大きく異なる成果は，駅の設置のような鉄道事業会社との連携を必要とする取り組みであろう。

### 4-3　目的

表 5）は，初期組織の発足の時の「組織名」一覧表である。①～④は，建物空間を設置することを主たる目的としており，設置された建物や空間をマネジメントするための組織は別途存在するものである。駅は鉄道会社，成瀬会館は NPO 法人，成瀬コミュニティセンターは町田市と協働で運営し，そして神社は氏子会といった具合である。これらを「空間設置型」とする。

一方⑤～⑧にあるものは，障害者の生活を支えること，自然を活かした子供のための空間を提供する等のミッションを持ち，そのミッションを達成させるための拠点をつくった団体である。拠点形成後も，拠点形成の母体となった組織が継続的に活動をし，施設の運営にあたっている。これは「ミッション型」とする。

### 4-4　住民の主体的活動のネットワークの拡がり

表 6）は，住民の主体的活動のネットワークの拡がりを「空間設置型」と「ミッション型」で分析した。「空間設置型」の特徴は，設置された建物や空

**表 3）** 背景

| 要因 | 内的要因 | 内的要因＋外的要因 | | 外的要因 |
|---|---|---|---|---|
| 背景 | 地域からの要望による（福祉・障害者施設） | 失われつつあるものを保存と継続 | 基盤整備と同時実施による | 公共工事決定による |
| 事例 | ⑤社会福祉法人「地の星」建設<br>⑥ケアセンター成瀬建設 | ⑦くすの木山自然公園開園<br>⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 | ①成瀬駅設置<br>②成瀬会館建設 | ③成瀬コミュニティセンー運営の検討<br>④杉山神社の遷都 |

**表 4）** 分野

| 地域交通 | 地域施設 | 地域文化 | 地域福祉 | 環境 | 子ども |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| ①成瀬駅設置 | ②成瀬会館建設<br>③成瀬コミュニティセンター運営の検討 | ④杉山神社の遷都 | ⑤社会福祉法人「地の星」建設<br>⑥ケアセンター成瀬建設 | ⑦くすの木山自然公園開園 | ⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 |

**表 5）** 組織の初期の名称と活動の主旨

| | 事例 | 初期の「組織名」 | 主旨 |
|---|---|---|---|
| 空間設置型 | ①成瀬駅設置 | 「成瀬駅設置期成同盟」 | 自分たちの街に駅をつくる |
| | ②成瀬会館建設 | 「建設準備会」 | 地域コミュニティの拠点をつくる |
| | ③成瀬コミュニティセンター運営の検討 | 「成瀬センター運営委員会」 | 地域の活動やサークル活動ができる場所をつくる |
| | ④杉山神社の遷都 | 「対策委委員会」 | 鎮守神域にふさわしい場所に遷都をする |
| ミッション型 | ⑤社会福祉法人「地の星」建設 | 「ベロニカ」 | |
| | ⑥ケアセンター成瀬建設 | 「暖家の会」 | 安心して暮らせる地域をつくる |
| | ⑦くすの木山自然公園開園 | 「緑を守る市民の会」 | 自然を次世代にのこす |
| | ⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 | 「子ども広場を考える会あそべこどもたち」 | こどもの遊び場をつくる |

**表6）住民の主体的活動のネットワークの拡がり**

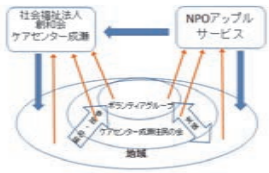
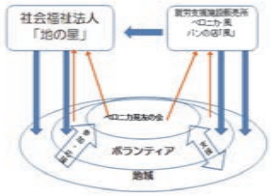
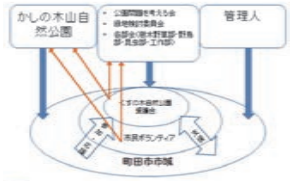
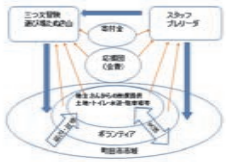
| 組織 | ⑤社会福祉法人「地の星」 | ⑥ケアセンター成瀬 | ⑦くすの木山自然公園 | ⑧三つ又冒険遊び場たぬき山 |
|---|---|---|---|---|
| 広報活動<br>会報 | ●「地の星」 | ●けあなる<br>えぷろん通信 | ●どんぐり | ●たぬき山通信 |
| イベント | ●コンサート<br>チャリティコンサート等 | ●音楽会<br>ケアセンター成瀬まつり等 | ●講座<br>自然講座開催等 | ●懇談会<br>お知恵拝借遊行会等 |
| 販売・収益 | ●絵はがき | ●フリーマーケット | | ●Tシャツ・カレンダー等 |
| 体験<br>研修での受け入れ | ●職場体験<br>・中学生<br>・大学生 | ●職場体験<br>・医学生<br>けあなるより | ●研修<br>・小学校新任教諭<br>・学生<br>・小学校総合学習 | ●研修<br>・小学校～大学研修 |
| 連携組織<br>交流団体<br>研修 | ●交流団体<br>・成瀬商友会<br>・町田市青年健全育成南第２地区委員会等 | ●研修<br>・ホームヘルパー養成講座 | ●研修<br>・自然保護センター | ●連携組織<br>・まちだ冒険遊び場をつなぐ会<br>・多摩プレイパーク連合会等 |
| 地域との接点 | ●販売<br>就労支援施設<br>販売所<br>（風タピオラ・パンの店『風』） | ●交流の場所<br>施設一階に地域交流センターを設けている。 | ●共同作業<br>公園を市民ボランティアとともにつくる。（園路・ベンチ・看板等） | ●交流の場所<br>・子育てカフェ |
| 活動状況 | ・継続中 | ・継続中 | ・継続中 | ・継続中 |
| 活動の担い手のエリア | ・町田市市域の有志 | ・町田市市域の有志 | ・町田市市域 | ・町田市市域 |
| 組織と地域とのつながり<br>凡例<br>法人組織<br>法人組織（サービス提供）→住民<br>住民・市民組織<br>市民→組織（支援）<br>地域住民がボランティア活動として参加・応援<br>住民同士の支援 |  |  |  |  |

**表7）** 地域のネットワーク構築の手法

| | 成瀬駅の設置 | 成瀬会館の建設 | 成瀬コミュニティセンターの検討 | 杉山神社遷都（移転） | 社会福祉法人「地の星」建設 | ケアセンター成瀬建設 | かしの木山自然公園開園 | 三つ又冒険遊び場たぬき山 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 背景 | 横浜線は1908年に開通したが、成瀬には駅がなく、住民が設置を希望していた。 | 成瀬土地区画整理組合内の共有地の取り合いから、町内会集会所建設の話が起きる。 | 南第2小学校が新校舎に移転に伴い跡地利用を考える。 | 1965年都市計画路線の公共工事決定に伴い、2・2・13号線が神域の一部を通過することになり、神域の移転を迫られた。 | 安達和郎さん・利恵子さん夫婦が成瀬地域内の自宅にて障害者施設「ベロニカ苑」をはじめた | 医院が高齢の患者から相談を契機に住民同士が支え合う「暖家の家」が発足。その後地域住民が集い交流し、活動の拠点を求める気運が高まった。 | 宅地開発により緑が減少していた。自然を残し、その魅力を生かした公園を作ろうと活動を始めた。 | 都市化が進み、子どもの遊び場は量的にも質的にも減少していったことに疑問を持つ親が活動を始めた。 |
| 目的 | ・ＪＲ東日本横浜線に新駅（成瀬駅）設置をすること | ・成瀬町内の集会所建設 | ・南第2小学校の旧校舎の跡地利用と運営 | ・杉山神社遷都 | ・福祉施設建設と社会福祉法人化<br>社会福祉施設「地の星」建設（障害者施設） | ・社会福祉施設「ケアセンター成瀬」建設（高齢者施設） | ・かしの木山自然公園開園 | ・子どもの自由な遊び場つくり |
| 組織活動 | ・1933年地元の有志による新駅設置の動き<br>・1966年「成瀬駅設置期成同盟」が発足　鉄道省に陳情書提出<br>・727名の署名を集め町田市に「横浜線長津田駅-原町田間、成瀬地域駅舎新設に関する請願」をした。<br>・同年9月採択<br>・1970年「準備会」設立<br>・1972年認可<br>・1975年新駅設置が決定<br>・1979年成瀬駅開業[7] | ・1968年7月「建設準備会」を設立<br>・1970年1月本契約の締結<br>・1970年4月地鎮祭<br>・1970年6月に竣工。[7] | ・南第2小学校が新校舎に移転に伴い旧校舎の跡地利用をどのようにするか成瀬町内会と各種団体が話合う。<br>・1978年「成瀬センター運営委員会」が発足<br>1979年開所式[7] | ・氏子からなる「対策委委員会」を設置<br>・1977年責任役員・対策委員・講中年番の三者合同対策会議開催。東京都に神社用地の買い上げを申し入れ、現在位置になる。<br>・1980年買い上げ手続き完了<br>「対策委委員会」→「建築委員会」改編<br>・1982年遷都[7] | ・1986年「ベロニカ」誕生<br>・1997年から準備を進める。<br>・2002年社会福祉法人「地の星」になる。[9] | ・1989「暖家の会」発足<br>「センター建設促進住民の会」が結成<br>約4500名の署名を集め成瀬台にコミュニティセンターの建設を求める陳情を町田市に提出<br>・1993「センター建設促進住民の会」結成<br>約1000人の住民参加<br>・1996「ケアセンター成瀬」「NPO法人アップルサービス」<br>「ケアセ　「ケアセンター成瀬住民の会」[10][11] | ・1985「緑を守る市民の会」結成。どんぐり山を公園として保全するための署名運動開始―署名10146人を集め町田市長に陳情書提出<br>・1986.5「青空懇談会」開催し「かしの木山自然公園」と命名<br>・1986年土地買収完了<br>・1986年「かしの木山自然公園愛護会」結成<br>・1987年市民が多数参加し、開園に向け園路・ベンチ等の作業。<br>・1988　開園[12] | ・1997「子ども広場を考える会あそべこどもたち」が発足し、遊び場アンケート（幼児から子供まで500人が回答）を経て、小学校や中学校を借りてフリースペースでの活動が始まった。<br>・1999「三つ又冒険遊び場たぬき山」発足<br>・2014三つ又での活動終了[13] |
| 成果・役割 | ・1979年に成瀬駅新設。現在では一日乗客数19366人／日もの人が利用している。資料）ウィキペディア（2014.09.28） | ・地域の集会施設として、仏事、サークル活動等地域コミュニティの拠点として利用されている。[2] | ・多目的ホール、会議室、グラウンド、「かえで文庫」（地域文庫）がある。地域の活動やサークル活動で利用されている。[8] | ・今でも成瀬の鎮守として信仰されている。毎年7月には杉山神社例大祭祭りが盛大に行われている。 | ・就労施設パンの店「風」や風-タピオラのお店を通じ地域のつながりを大切にしながら活動をしている。 | ・介護保険事業者として、通所介護・訪問介護・在宅介護支援を行う。ＮＰＯアップルサービスが食事サービス・ホームヘルプサービス・住まいのサービスを行う。 | ・小学校新任教諭研修・学生の研修・小学校総合学習の場所としても利用された。身近な自然と親しみ、自然の営みや緑の大切さを楽しみながら理解できる場の提供。 | ・乳幼児を持つ親の子育て支援、子どもの体験。様々な世代の人が集まる憩の場所の提供。三つ又での活動は2014年に終了し、移転。 |
| 特記事項 | 費用は、成瀬南土地区画整理組合が駅舎・駅前広場の整備費用を負担した。 | 費用は区画整理内の共有地の売り払い金を基金と一般住民からの寄付により建設された。 | 現在、改修工事中である。 | 費用は、補償費と旧社城の売掛金と基金の取りくずし、氏子の寄付等により賄うことで建設された。 | なし | なし | なし | 「地主さんからの土地の無料提供・水道・駐車場の設置、毎年の草刈り等、金銭面にも多くの支援」に支えられていた。 |

間をマネジメントするための組織で，活動に完結性があり一定期間で区切ることができる。①成瀬駅設置②成瀬会館建設③成瀬コミュニティセンター運営の検討④杉山神社の遷都である。これは，住民の主体的活動のネットワークの拡がりを伴わない。

「ミッション型」の特徴は，空間を提供する等のミッションを持ち，そのミッションを達成させるための拠点をつくった団体で，活動に継続性があり一定期間で区切ることができない。⑤社会福祉法人「地の星」建設⑥ケアセンター成瀬建設⑦くすの木山自然公園開園⑧三つ又冒険たぬき山である。これは，住民の主体的活動のネットワークの拡がりを伴う。

さらに表 7）では，組織の地域のネットワーク構築の手法を確かめる。各組織は広報活動（会報・通信・パンフレット）イベント・販売・体験など，地域との接点をつくり地域とつながる為の工夫がみられた。表 7）下段の図では，各組織と地域住民とのつながりを図式化したものである。成瀬地域の特徴として，組織には「組織を支える住民の会」があり，さらに住民の会には「住民の会を支える地域住民」という，住民が主体的に街を育てるような循環が地域の中に生まれていた。

## 5　まとめ

「住民主体」の街づくりにおいては，地域のニーズが直接反映できるというメリットがある。しかしその組織を地域で円滑に運営する為には，地域住民からの支援・応援があって初めて成り立つものである。それには，組織と地域住民のつながりが大切になる。

成瀬地域では，会報の発行やイベントを通じて地域住民を積極的に取り組み，組織と地域とのつながりを強めて行き，組織を支える地域のネットワークを拡げていった。その結果，組織と地域がつながり「住民主体」の街づくりが行なわれていた。

### 註

＊1）井上恭一氏へのヒヤリングを 2014 年 2 月 21 日に実施。

＊2）元 JA 職員小宮昌春氏へのヒヤリングを 2014 年 5 月 16 日に実施

＊3）町田市まちづくり 50 年史　P6　P7　P10　P11 等より作成。

＊4）「成瀬」成瀬郷土史研究会（参考文献 7）P468 P469　に成瀬駅設置の地域住民の動きに関する記述がある。

＊5）「成瀬」成瀬郷土史研究会（参考文献 7）P128 P129　成瀬会館が建築されることになった理由が記載されている。

＊6）「成瀬」成瀬郷土史研究会（参考文献 7）P402 P403　成瀬コミュニティセンターが開設されることになった出来事に関する記述がある。

＊7）「成瀬」成瀬郷土史研究会（参考文献 7）P275 杉山神社遷都が終了するまのあゆみに関する記述がある。

＊8）井上恭一「地の星と共に」社会福祉法人・地の星（参考文献9）P5　P13　P26 社会福祉法人「地の星」建設に至るまでの出来事に関する記述がある。

＊9）ケアセンター成瀬「終の棲家への思いが生んだ支え合う 3 つの柱」P72　P73　P74　月刊福祉　2013.7
ケアセンター成瀬あゆみと住民相互の支えあいの記述がある。

＊10）「開園二十周年記念誌」町田市立かしの木山自然公園愛護会　P1　P3　株式会社新星舎印刷所　2008 年
かしの木山自然公園愛護会のあゆみの記述がある。

＊11）かけがえのない時間～冒険遊び場たぬき山の風景」　P16　子ども広場あそべこどもたち 2009
三叉冒険遊び場たぬき山の活動がはじまったきっかけを確認する記述がある。

＊12）「まちだの NPO」まちだ　NPO 連合会　P83 2014
三つ又冒険遊び場たぬき山の活動目的が記載がある。

### 参考文献

1）定行まり子「生活と住居」株式会社光生館 2013

2）「まちだの NPO」まちだ　NPO 連合会　2014

3）麻生　賢一「市民参加と協働」の街づくりに関する一考察」奈良県立大学研究会　2009

4）篠原　祥　「都市のマネジメント」都市・まちづくり学入門　日本都市計画学会関西支部　株

式会社学研出版社　2011
5）町田市団地白書　町田市　2013
6）町田市まちづくり 50 年史　町田市　2008
7）「成瀬」成瀬郷土史研究会　第一法規出版株式会社　1985 年
8）町田市都市計画マスタープラン
町田市ホームページ www.city.machida.tokyo.jp/community/s...　2014.10.1
9）井上恭一「地の星と共に」社会福祉法人・地の星　八昭印刷株式会社　2013
10）ケアセンター成瀬「終の棲家への思いが生んだ支え合う３つの柱」　月刊福祉　2013.7
11）社会福祉法人創和会　ケアセンター成瀬　ccnaruse.com/danke.html
12）「開園二十周年記念誌」町田市立かしの木山自然公園愛護会　株式会社新星舎印刷所　2008 年
13）「かけがえのない時間～冒険遊び場たぬき山の風景」子ども広場あそべこどもたち　2009
14）「町田市ケアセンター成瀬」　調査季報 127 号・1996.9
15　久　隆治　他「都市・街づくり学入門」株式会社　学研出版所　2011
16）「地の星」ベロニカ苑５周年記念誌　1991